

研 究 論 集

第 二 十 卷

前 卷 目 次

第 十 九 卷

松平静翁の枕冊子研究について	柿谷雄三	一	右から
「松尾寺に伝承される仏舞」について	小野功竜	二一	
J. S. Bach (1685~1750) の作品における 拍子記号とテンポについて	中山明慶	1	左から
朗誦の概念規定のための試論	大西島谷紀美子	31	
欧米の消費者問題について	白取吉敏	35	
炭化水素資化性酵母 K Y-11 に関する研究	玉置下置 坂下キク子	49	
生命に関して	富田朋介	57	
書評 田中重太郎氏著「清少納言枕冊子研究」	楠道隆	四三〇	
計報		四五七	
彙報		四六七	

彙報

一般教育・教職関係

(学部・短大共通)

○著書

秦 博 教授

「教育五十年」—訓導から教授まで—。

昭和四十七年六月七日発行、限定出版・非売品

○学会発表

岡 邦俊 教授

日本宗教学会第三十一回学術大会にて研究発表(講演)

(昭和四十七年十月二十一日、東京駒沢大学に於て)

題目 「代受苦について—浄土真宗とキリスト教との比較—」

中西 智海 助教授

大阪私立短期大学協会研究紀要(昭和四十七年四月)に論文発表(掲載)

題目 「仏教と歴史性の研究」

音楽学部関係

学会活動及び研究発表

酒井 諄 教授(音楽学)

昭和四十七年十月九日、愛媛大学教育学部における東洋音楽学会第二十三回全

国大会において、伊勢志摩民俗調査団の調査報告として伊勢志摩民俗音楽の研究(1)、「伊勢志摩の民俗音楽」と題して発表。
昭和四十七年十月十二日、エリザベト音楽大学における音楽学会第二十三回全国大会の「ハンスリックの音楽美学の功罪」と題したラウンドテーブルのパネラーをつとめた。また翌十三日の「音楽と音楽学」と題したシンポジウムの司会をつとめた。

佐藤 允彦 助教授(音楽学)

昭和四十七年十月十二日、エリザベト音楽大学における音楽学会第二十三回全国大会で「19世紀の音楽史上の位置」と題したラウンドテーブルのパネラーをつとめた。

辻井 英世 助教授(音楽学)

作品出版：フルート、ギター、チェロのためのハナフタV(三月二十日)、ハ響像V(三月二十日)、女声合唱とピアノのためのハあえかなきぎしV(四月二十日)、フルートのためのハポリモルフィーV(七月二十日)、以上4作品音楽之友社

論文：「意識の浮動(パッハについて)」「音楽現代」第二巻第五号(五月一日)

講義：「音楽と不確定性」二月十七日、於大阪ドイツ文化センター

小野 功龍 助教授(音楽学)

伊勢志摩民俗音楽調査。

中山 明慶 講師(音楽学)

昭和四十七年五月二十九日、相愛女子大学において、大阪楽友協会音楽研究所第一回ハ音楽研究講座Vに「J・Sパッハの『フーガ』の技法」について」と題して発表。

昭和四十七年十月十二日、エリザベト音楽大学における音楽学会第二十三回全国大会で「バロック音楽研究の基本問題」と題したラウンドテーブルのパネラーをつとめた。

大谷 紀美子 講師 (音楽学)

昭和四十七年十月九日愛媛大学教育学部における東洋音楽学会第二十三回全国大会において伊勢志摩民俗調査団の調査報告として、伊勢志摩民俗音楽の研究(2)「式年遷宮における御木曳について」と題して発表。

伊勢志摩民俗音楽調査について

東洋音楽学会では、第九回民俗音楽の調査地を伊勢志摩地方と決定され、関西支部の置かれる本学からは酒井諄、小野功龍、中山明慶、大谷紀美子、西島恵子の各教員諸氏が参加した。第一次は昭和四十七年三月十日・十七日、第二次は七月二十四日・三十一日の各期に亘って実施されたが、特に第二次調査においては、若干名の音楽学専攻学生も参加した。

なお、この調査報告の一部は、昭和四十七年十月九・十両日愛媛大学での東洋音楽学会第二十三回全国大会において、「伊勢志摩民俗音楽の研究」と題して酒井諄、大谷紀美子両氏によって発表された。

久志本 秀 夫 助教授 (外国語・歴史)

昭和四十七年十月十五日、日本西洋史学会第二十二回大会(於、徳島大学教養部(にて「ルネサンス」における古代の発見——特にアンコーナのチリアコの業績について——)と題して研究発表をした。

作品発表及びリサイタル

山田 光 生 助教授 (作曲)

昭和四十七年五月二十五日、東京虎ノ門ホールにて「第五回グループ12・1作品演奏会」(新作管弦楽曲によるコンサート)で作曲の「両面宿儺」(オーケストラと声によるファンタジー)を指揮山岡重信、バリトン木川田誠、ソプラノ山田紀久子、管弦楽東京フィルハーモニー交響楽団の出演によって発表。

木川田 誠 助教授 (声乐)

昭和四十七年一月十三日厚生年金中ホールにおいての室内オペラ、テレマン作曲の「ピンビノーネ」の主役として出演。

昭和四十七年十月三十一日毎日ホールにおいてシューベルト作曲「冬の旅」全曲のリサイタルを聞く。

門屋 菊 子 助教授 (声乐)

昭和四十七年一月十三日厚生年金中ホールにおいての室内オペラ、メノッティ作曲の「電話」のルーシー役で出演。

瀧野 澄 子 講師 (声乐・ソルフェージュ)

昭和四十七年五月十八日郵便貯金ホールにてソプラノ・リサイタルを開いた。曲目は、別宮貞雄作曲、歌曲集「淡彩抄」「立原道造による四つのうち」パッサカリア作曲カンタータ第三十九番、五十八番、百二十九番、復活祭オラトリオからアリア。

賛助出演 沢村千栄子(ピアノ・チェンバロ)、吉永清子(バイオリン)、若林正史(フルート)、藤田淑子(チェロ)

徳末 悦 子 教授 (ピアノ)

昭和四十七年三月三十日、神戸・県民小劇場において「フランス音楽の夕べ」と題してピアノリサイタルを開いた。曲目は、ドビュッシーの「版画」「月の光」「亜麻色の髪の乙女」「喜びの島」、プーランクの「無窮動」「牧歌」「トックカータ」、ラヴェルの「夜のガスパール」。

伊奈 和 子 助教授 (ピアノ)

昭和四十七年二月六日、テレビリサイタル(NHK・TV)において、ベートヴェンの熱情ソナタ他を演奏。
昭和四十七年三月十八日、大津商工会議所ホールにおいてのピアノ・リサイタルにモーツァルトのソナタ(トルコマーチ付)、ベートヴェンの熱情ソナタ、シ

ヨパンの英雄ボロネーズ他を演奏。

昭和四十七年五月二十五日、東京第一生命ホールにおいてのピアノ・リサイタルにモーツァルト、ハイドン、ベートヴェン、ショパン、邦人作品などを演奏。

内田 胎子 助教授(ピアノ)

昭和四十七年九月十四日、モーツァルトサロンにおいてピアノ・リサイタルを開いた。曲目は、グラズノフ作曲ソナタ第一番作品七十四、スクリアピン作曲二つの詩曲作品三十二、スクリアピン作曲エチュード作品四十二の四、四十二の五、スクリアピン作曲ソナタ第五番作品五十三。

沢村 千栄子 助手(ピアノ)

昭和四十七年六月十四日、モーツァルト・サロンにおいてのピアノ・リサイタルで、ラヴェルの「クープランの墓」「夜のガスパール」を演奏。

卒業論文(音楽学専攻)

浅田 博子

上方落語に於ける寄席囃子——とくに「はめもの」について——

今 莊 英子

合方の音楽的

中 辻 千鶴子

標題音楽に関する一考察——とくに標題性の問題をめぐって——

短大国文学科関係

○著書

今小路 覚 瑞 教授(ペンネーム:玉山而)

「歌文集 ひとりしづか」

昭和四十七年五月五日、初音書房発行

○評論発表

森 本 茂 助 教授

題目 「文学と風土」京都府

「解釈」昭和四十七年一・四・九月号に掲載

短大家政学科関係

(食物専攻・被服専攻)

○著書

神田 美年子 教授

「被服学概論」の中の「被服のデザイン」の部を分担執筆

昭和四十七年一月、日本繊維製品消費科学会発行

塩野 緑子 教授
山口 光子 助手

「調理の理論と手法」

昭和四十七年九月一日、化学同人発行、定価九〇〇円

○学会発表

小原 国彦 教授

玉置 ミヨ子 助手

一、昭和四十七年日本家政学会総会（昭和四十七年十月一日、東京）に於いて

研究発表（講演）

題目 *Candida pelliculosa* KY-11 の炭素源資化にみる拮抗現象と塩高

張について

二、昭和四十七年日本栄養改善学会総会（昭和四十七年十月十九日、静岡）に

於いて研究発表（講演）

題目 海産脂質資化性酵母生産への条件探索

○論文・評論・作品発表

木下 邦夫 講師

「洗いと縫いの制御の最近の傾向」

衣生活 昭和四十七年一月号に掲載

山本 登美子 教授

作品発表 (一)、昭和四十七年二月二十六日、大阪毎日ホールに於いて日本デ

ザイン文化協会（NDK）主催の「七十二年・春夏作品発表

会」

作品名：プレタポルテに於ける一考察のアフタヌンドレス

(二)、昭和四十七年三月十一日

日本デザイン文化協会主催の関西テレビ放送

「ほほえみの展開」テレビショー（午後三時～四時）

作品名：原始時代と近代とを関連づけたプロトスタイルのワ

ンピースドレス

○海外旅行

神田 美年子 教授

第二十回国際家政学会総会に参加、（一九七二年七月二十三日～二十九日、

フィンランドのヘルシンキ工科大学に於いて）、右の総会出席のため、七月

二十一日羽田発、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、イギリス、フラン

ス、スペイン、イタリア等を視察し、八月九日帰国。

編 集 後 記

本巻をもってこの研究論集は第20巻となった。論文は、充実した11篇。このうち新進の研究論文多数を収録し得たことは、将来の相愛学園が発展する一つのメルクマールとして欣びにたえない次第である。

なお、この巻より、研究論集という特色を出すために、彙報に関しては、従来のものとは異なり、かなり削減されたものが多々あり、一篇でも多くの研究論文を掲載することを目的とした。この彙報に関して従来の会報的立場をとるならば、研究や社会活動の多くの業績のあった木場集蔵先生急逝、富田朋介先生ご逝去についての追悼文を載せるべきであるが、前巻の論集で富田先生の論文が絶筆となったこと、また木場先生においては、本巻に掲載の予約をされながら、ついにはたしえなかったことをここに述べさせていただき、ご両人の冥福を祈る次第である。

更に、次巻は、相愛学園創立八十五周年を記念するべき記念号となるのでご期待下さい。

編 集 委 員 (五十音順)

	岡	邦	俊
	久志本	秀	夫
(委員長)	白	取	吉
	田	中	昭
	中	山	明
	三	谷	幸